

# 文学部におけるライティング環境調査

## ー卒論ラボを中心にー

樋口隆太郎・林田定男・出口由美・山田嘉徳・金田純平

### 要約

関西大学文学部は、2010（平成 22）年度より、文部科学省 GP の支援のもと、「文学士を実質化する〈学びの環境リンク〉」のテーマで、本学部の教育課程の特性を活かし、文学士を実質化できるような学びの環境作りのプロジェクトを開始した。

2011 年度後期は、その年次スケジュールにおいて、検証と改善フェーズに該当する。そこで、検証と改善に資するため、学生アンケート調査を実施した。文章力に対する学生のイメージおよびアカデミック・ライティング環境の整備状況、この 2 点についての現状を把握することが目的である。

関西大学文学部生 457 名を対象に、アンケート調査を実施した。分析結果を摘記すると、文章力に対する学生のイメージについては、進級に伴って文章力に対する自信の上昇と不安の低減が見られたこと、年次を通じて文章力の必要性およびそれを向上させるための努力の認識に差異が見られなかったことが明らかになった。アカデミック・ライティングの環境については、ワンポイント講座等の啓発事業についての学生の認知度が低く、広報の質・量ともに十分ではないことが明るみになった。また、年次や時期によって変化する学生の（潜在的）ニーズを考慮してテーマを選定する必要があることもわかった。

来年度は、GP プロジェクトの本格的運用期間をむかえる。今回の調査によって顕在化した広報における問題点や学生のニーズ等を勘案しつつ、学生にとってより有益な事業を展開する必要がある。

### キーワード

文章力、卒論ラボ（ライティングセンター）、認知度、広報活動、学士力

writing skill, Sotsuron Labo (writing center), recognition degree, public relations, Gakushi-ryoku (proficiencies and/or skills for bachelor's degree)

### はじめに

昨今の大学教育に関して、知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、統合的な学習経験と創造的思考力の 4 点から構成される学士力が、学士課程教育における共通の学習成果として提案されており、学生の獲得すべき学習成果が明確化するような改善案を文部科学省は提言している（中央教育審議会、2008）。そのような状況の中で、関西大学文学部は、一学科制（総合人文学科）を採用しており、学部共通の初年次教育の実施後、2 年次から 19 専修のそれぞれに学生を分属させ、専門教育を行っている。中でも 2～4 年次一貫の少人数演習科目「専修ゼミ」を（学びの場）の中心として、学生が自分でテーマを設定し独創的な課題

探究を推進できるよう育む教育課程を構築している。

### 文学部 GP「文学士を実質化する〈学びの環境リンク〉」

2010（平成 22）年度より、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業大学教育プログラム (GP)」の支援のもと、「文学士を実質化する〈学びの環境リンク〉ー卒論ラボ・スケール・カードの有機的な連携による“気づき”を促す仕組み作りー」のテーマで、文学部の教育課程の特性を活かし、文学士を実質化できるような学びの環境作りのプロジェクトを開始した。ここでは、学部において必修である卒業論文に注目し、その完成までの道のりを通して、学生自らが多様化する社会の中で生きる力「学士力」を段階的に培うことのできる学

習環境の整備を現在進めている。

学びの環境作りの具体的実践は、①文章力を育む環境作り（アカデミック・ライティングの環境）、②自らの達成度を測る環境作り（学習成果の検証と質保証の環境）、③気づきを促す環境作り（Web環境）、の3つから構成される。そして、これらを有機的に連携させた〈学びの環境リンク〉として、学生の学習過程において自らが振り返り、気づきを通じて学士力を培えるような環境を整備することが最終到達点である。プロジェクトの年次スケジュールは、2010年度の準備フェーズ、2011年度前半の試験的運用フェーズと後半の検証・改善のフェーズ、2012年度の本格的運用期間および卒業論文評価の本格実施となっている。

2010年度後期から、まずアカデミック・ライティングの環境の整備を進めた。2011年4月に〈卒論ラボ〉を第1学舎1号館5・6階に開設し、卒業論文執筆に向けてアカデミック・ライティングのスキルを育成するためのサポートを行っている。卒論ラボに常駐するTA（人文系の博士後期課程に在籍する大学院生）は、入室した学生に対して、レポートや論文など学術的文章作成に関するアド

ヴァイスを対話形式で行っている。また、文学部開講の演習科目とも連携して、利用機会の拡大を図っている。これに加えて、ワンポイント講座、「文章力をみがく講演会」（以下、講演会）、ワンポイント講座特別編「ワンランク上のライティングへ」（以下、特別編）などの啓発事業を企画・運営している。なかでも、ワンポイント講座は、レポートや論文の執筆に必要な事項を基礎から学ぶ場として、授業期間中に毎週1回開講している。各回の講座は、卒業論文そのものをテーマとして取り扱うこともあるが、その多くは汎用的文章力の獲得・養成を目指したものである。Table 1は、2011年度秋学期に開講された講座のテーマとその概要の一覧である。

本調査の目的は、GPプロジェクトの検証・改善フェーズにおける現状認識として、文章力に対する学生の意識、卒論ラボの認知度および啓発事業の宣伝効果の2点について把握することである。そこから、学生がラボに対してもつ潜在的な需要の洗い出しと、より効果的な広報戦略の探求を目指す。

Table 1 ワンポイント講座の内容

テーマ	内容
1. 卒論のここが知りたい	卒論の重要性・効用を知ろう
2. 書く前に、こうやって読む	クリティカル・リーディングの方法を知ろう
3. 文章のアクセサリー	読点の効用を知り、文章作成意識を高めよう
4. 感想文と論文	学術的文章における客観性の重要性を確認しよう
5. 論拠と意見	主観と客観の区別を意識しよう
6. 文章の順番	ナンバリングを身に付けよう
7. 「しかし」と「そして」	接続詞を使う意味を理解しよう
8. 具体例をうまく使う	帰納法・演繹法について理解を深めよう
9. 説得する表現	論理的思考の重要性を再認識しよう
10. 「剽窃」と「引用」	文章表現における倫理観を身に付けよう
11. 論文の作法	引用方法や参考文献の示し方についてルール(例)を知ろう

## 調査方法

2011年12月に関西大学の学部生560名を対象に調査を実施した。本稿では文学部GPの取り組みの現状を把握することを目的としていたため、560名のうち、文学部生457名（1年次生118名；2年次生127名；3年次生98名；4年次生35名；不明79名）を分析の対象とした。なお、文学部に所属する聴講生・科目等履修生が1名いたが、

今回の分析からは除外した。

調査は、文学部GP委員会所属教員を中心に依頼し、講義中あるいは講義後の時間を利用して、行われた。参加者は、文章力についての6項目、卒論ラボについての3項目、卒論ラボに関連する啓発事業についての12項目の計21項目からなる質問紙（資料を参照）に回答した。

## 調査結果

文章力についての項目、卒論ラボについての項目、卒論ラボに関連する啓発行事についての項目について、記述統計を用いて以下に結果をまとめた。自由記述については、別途新たに報告するものとし、本稿では言及しない。

### 文章力について

文章力についての項目の年次別記述統計を Table 2 に示した。各項目は 5 件法で回答しても

らい、点数が大きいほど項目に対して正の回答であることを示す。これらの平均値 (M) から、文章力の自信は年次が上がるにつれて高まっていることがわかった。また、文章力への不安も年次が上がるにつれて、低減していることがうかがえた。さらに、年次での差異はほとんどなく、在学時も卒業後も一貫して文章力を必要であると考えている一方で、向上させるための努力はそれほどしていないと考えていることがわかった。

Table 2 年次別文章力に対するイメージ

項目	1年次生 M (SD)	2年次生 M (SD)	3年次生 M (SD)	4年次生 M (SD)
文章力の自信	2.4 (1.1)	2.6 (1.1)	2.6 (1.0)	3.0 (1.2)
文章力への不安	3.9 (0.9)	3.7 (1.0)	3.8 (1.0)	3.3 (1.1)
文章力向上のための努力	2.4 (1.1)	2.3 (1.0)	2.6 (1.1)	2.6 (1.1)
文章力の必要性 (大学生時)	4.7 (0.5)	4.6 (0.6)	4.7 (0.6)	4.7 (0.5)
文章力の必要性 (卒業後)	4.7 (0.6)	4.7 (0.5)	4.8 (0.6)	4.8 (0.4)

\* M は平均, SD は標準偏差を示す

### 卒論ラボについて

卒論ラボの認知度について尋ねたところ、その役割を知っている者は 229 名で知らない者が 223 名であり、場所を知っている者が 276 名で知らない者が 172 名であった (Figure 1)。役割も場所も認知している者のほうが多いことがわかった。また、卒論ラボの場所を知っている者に対し、卒論ラボを利用したことがあるかを尋ねたところ、1 回以上利用した経験のある者が 19.5%で、利用した経験のない者が 80.5%であった。卒論ラボの存在自体は知っているものの、利用にまでいたらない場合が多数あることがわかった。

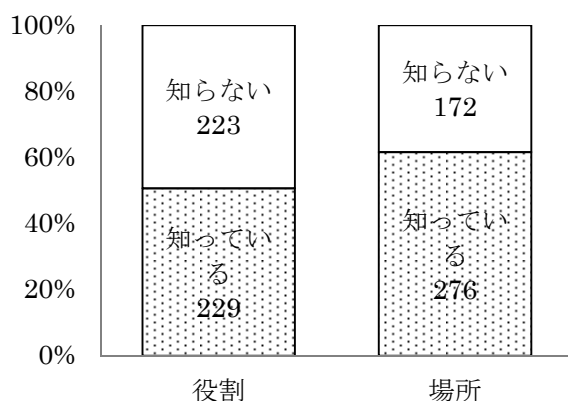


Figure 1 卒論ラボの認知度

### ワンポイント講座について

ワンポイント講座が開講されていることについてどの程度認知されているのかを調べるために尋ねたところ、知っている者が 169 名で、知らない者が 280 名であった (Figure 2)。そして、ワンポイント講座が開講についてどこから情報を入手したのかを尋ねたところ、授業での案内で知る場合が最も多く、次いでインフォメーションシステムと学内の掲示物があげられた (Figure 3)。

さらに、知っている者に対して受講した経験を尋ねたところ、1 回以上受講した経験のある者が 16.4%であるのに対し、まったく受講したことのない者が 83.6%であった。また、受講回数別の割合は、1 回が 8.2%、2〜4 回が 5.5%、5〜9 回が 0.5%、10 回以上が 2.2%であった。

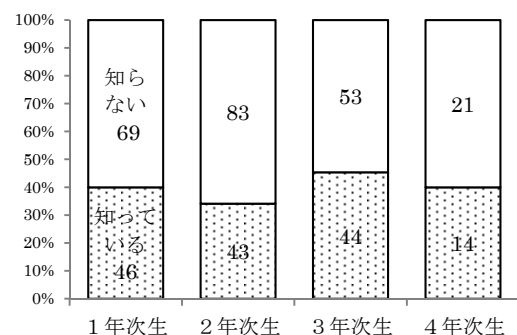


Figure 2 ワンポイント講座認知度

ワンポイント講座の年次別希望日をみたところ、1 年次生は月曜日と水曜日を希望する割合が比較的高く、2 年次生は月曜日が最も高かった。3 年次生は月曜日と火曜日と木曜日を希望する割合が比較的高く、4 年次生は月曜日と水曜日と金曜日を比較的多く希望していた（Table 3）。これらのことから、年次によって希望する曜日が異なっているものの、月曜日はどの年次でも希望する割合が高いことがうかがえた。

ワンポイント講座の年次別希望内容について、その割合を Table 4 に示した。「論拠と意見」や「説得する表現」といったテーマは、どの年次でも希望する割合が高かった。ただ、「卒論のここが知りたい」というテーマに関しては、1 年次生から 3

年次生までは比較的希望する割合が高いが、4 年次生では割合が低かった。

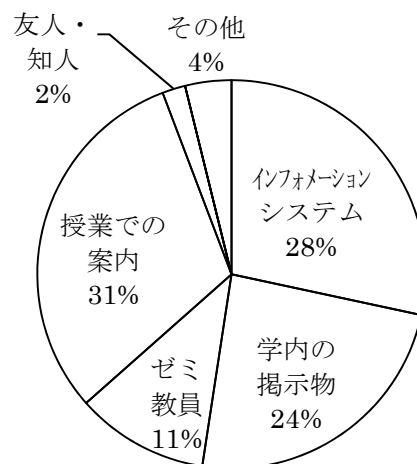


Figure 3 ワンポイント講座の情報入手源

Table 3 ワンポイント講座の学年別希望曜日内訳(複数回答可)

	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
月曜日	42	29.2%	42	26.4%	32	22.9%	12	20.7%
火曜日	23	16.0%	31	19.5%	32	22.9%	7	12.1%
水曜日	35	24.3%	24	15.1%	19	13.6%	15	25.9%
木曜日	18	12.5%	24	15.1%	36	25.7%	9	15.5%
金曜日	18	12.5%	23	14.5%	16	11.4%	13	22.4%
土曜日	8	5.6%	15	9.4%	5	3.6%	2	3.4%
合計	144	100.0%	159	100.0%	140	100.0%	58	100.0%

Table 4 ワンポイント講座の希望内容の学年別内訳(複数回答可)

テーマ	1年次生		2年次生		3年次生		4年次生	
	度数	割合	度数	割合	度数	割合	度数	割合
1. 卒論のここが知りたい	30	13.3%	44	16.7%	28	14.0%	2	2.9%
2. 書く前に、こうやって読む	16	7.1%	29	11.0%	17	8.5%	6	8.7%
3. 文章のアクセサリー	17	7.5%	16	6.1%	12	6.0%	0	0.0%
4. 感想文と論文	25	11.1%	16	6.1%	15	7.5%	7	10.1%
5. 論拠と意見	30	13.3%	25	9.5%	26	13.0%	13	18.8%
6. 文章の順番	7	3.1%	14	5.3%	9	4.5%	4	5.8%
7. 「しかし」と「そして」	11	4.9%	15	5.7%	10	5.0%	3	4.3%
8. 具体例をうまく使う	18	8.0%	20	7.6%	20	10.0%	4	5.8%
9. 説得する表現	38	16.8%	56	21.3%	39	19.5%	14	20.3%
10. 「剽窃」と「引用」	10	4.4%	4	1.5%	10	5.0%	5	7.2%
11. 論文の作法	24	10.6%	24	9.1%	14	7.0%	11	15.9%
合計	226	100.0%	263	100.0%	200	100.0%	69	100.0%

## 卒論ラボに関連する啓発行事について

まず、講演会の開催を知っているか尋ねたところ、知っている者が 75 名であり、知らない者が 357 名であった。そして、その情報の入手源は、インフォメーションシステムが最も高く、次いで授業での案内が高かった (Figure 4)。さらに、講演会が開催されていたことを知っていた者に対し、参加したかどうかを尋ねたところ、2 回とも参加した者が 7.8%で、1 回だけ参加した者が 29.9%であった。1 回も参加しなかった者は 62.3%であった。

特別編が開講されていたことを知っていた者は 26 名で、知らなかった者は 382 名であった。特別編が開講されていたことを知っていた者は、インフォメーションシステムから情報を最も入手していたことがわかった (Figure 5)。それに次いで、学内の掲示物や授業での案内から知った割合も高かった。そして、特別編の開講を知っていた者に対して、参加したかどうかを尋ねたところ、26.7%が参加しており、74.3%は参加していなかったことがわかった。

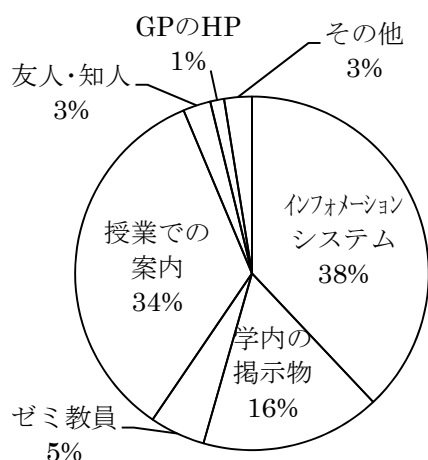


Figure4 講演会の情報入手源

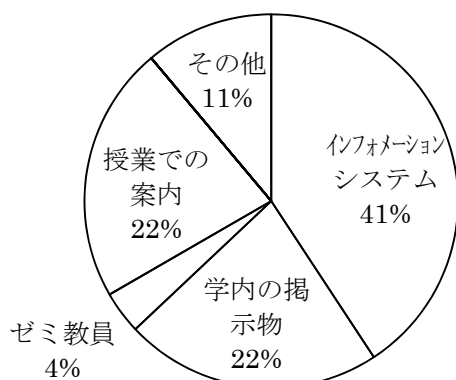


Figure 5 特別編の情報入手源

## 考察

### 文章力に対するイメージ

文章力に対するイメージについて検討する。いずれの年次においても、文章力を必要であると考えているものの、向上させるための努力を特に講じていないことがうかがえる。文章力への自信がそれほど高くないことも踏まえれば、努力していないというよりは、どのようにすれば文章力を高めることができるのかを知らないという可能性が考えられる。そのような問題に直面している学生が存在すると仮定すれば、卒論ラボはそれに応えられるはずであり、果たす役割は大きく、潜在的な需要があることは予想される。

また、年次が上がるほど、文章力に対する自信は高まり、文章力への不安は下がっている。これは、進級にともなって文章力が高まっていったと解釈できる。しかし、本調査は横断的であったため、年次間の差が真に進級による変化であるとは断定できず、各年次の特性によるとも考えられる。したがって、年次別での検討にあたっては、今後、継続的に調査する必要がある。

### 卒論ラボについて

卒論ラボの認知度について見る。まず、調査結果からわかることとして、卒論ラボの認知度が低いことがあげられる。卒論ラボの場所を知っている者は 62%、役割を知っている者の割合は 51%にとどまっており、文学部 GP の目的とその事業範囲に照らし合わせて考えれば、これらはいずれも本来 100%に近い割合で認知されていなければならない。しかし、このような調査結果が得られたことは、卒論ラボの場所及び役割が、学生に対して十分に説明されていないことが如実に示されている。考えられる原因としては、インフォメーションシステムでの案内のタイミングや学内掲示の位置に対して考慮が足りないこと、あるいは、文学部の教員にラボの存在や役割が十分周知されていないことなどがあげられる。

### ワンポイント講座について

ワンポイント講座は 1、2 年次生を主たる対象として開講していたが、認知度は 40%弱であり、

そのなかで実際に受講したことのある学生の割合は 20%弱（全体の約 7%）であった。この結果から、卒論ラボの認知度と同様に、学生への周知が十分でないことが明らかになった。次に、情報の入手源について検討する。多数を占めていたのは、上位から授業での案内、インフォメーションシステム、学内の掲示物であり、これらで全体の 83% にのぼる。これら 3 つの広報手段は学生に対して比較的効果があると考えられる。しかしながら、全体の認知度が 40%弱であることを踏まえると、広報手段を検討する余地は残されていると考えられる。継続して用いながらも、その頻度や時期を考慮して強化していくことが望まれる。また、初年次科目とさらなる連携を図ることも必要であり、科目の担当教員に協力を求めていく努力が必要である。

次にワンポイント講座の希望内容について分析する。選好の状況としてまず、年次をとおして「9. 説得する表現」をあげた割合が高かったことがあげられる。ワンポイント講座の対象者は 1、2 年次生を想定しているが、このテーマについては 3、4 年次生にも潜在的な需要があることがうかがえる。これは、3、4 年次生の中で大きな関心事と思われる就職活動や卒業後において、活用できる内容であり、応用可能性が高い内容であることが影響しているとも考えられる。一方、1～3 年次生と 4 年次生で希望する割合に差異がみられたテーマが 2 つあった。「1. 卒論のここが知りたい」は、1～3 年次生では希望が多く、4 年次生では少なかった。反対に、「11. 論文の作法」では、4 年次生の希望が多く、1～3 年次生の希望が少なかった。このことは、調査時期が 12 月中下旬であったために、卒業論文の提出に直面している状況が 4 年次生の選択に少なからず影響を及ぼしていることを示唆している。いずれにしても、年次によって文章およびそれによる表現活動（卒業論文執筆や就職活動におけるエントリーシート記入など）に対する考え方に違いがあることはこれらの結果からも容易に想像がつく。したがって、ワンポイント講座のテーマ設定には、対象とする年次だけで

なく、学生にとって大きな関心（あるいは心配の種）となる就職・進学や卒業についても考慮する必要があると言っていることができる。そうなった場合、例えば 4 年生次向けに「1. 卒論のここが知りたい」が有効になるためには、開講時期を進級時の 4 月や就職活動が一段落つき、卒論への関心（心配）が大きくなる 7 月や 9～10 月にするなど、開講時期の調整を工夫する必要がある。あくまで高等教育の中で行っていることであり、安易に学生の要望に応えたり、就職活動などの学術活動以外のものに対するニーズにおもねたりするべきではないかもしれないが、講座内容を検討し再構成することで受講者数の増加に努めなければならないであろう。

#### 卒論ラボに関連する啓発事業について

卒論ラボやワンポイント講座に比べて、講演会や特別編といった単発の啓発イベントの認知度はさらに下回っており、講演会の認知度は 17%、特別編は 6%であった。これらの啓発事業は、毎週開講のワンポイント講座とは異なり、不定期の開催であり、そのため広報期間が短くなり、学生の目に触れる総量が少なくなる傾向があるが、それでも認知度がここまで低迷したことは、広報の方法に問題があることは否定できない。開催情報の入手源がインフォメーションシステム、授業での案内、学内掲示の割合が高かった点では、ワンポイント講座と共通していることから、これら 3 つの手段を重点に置いて、タイミングや掲示の位置を工夫したうえで広報を強化していくことがすべてにおいて効果的である。

#### おわりに

本調査では、学生が抱く文章力に対するイメージと文学部 GP で行っているアカデミック・ライティング環境の整備状況に対する学生の認識の 2 点について、確認を行った。前者については、進級に伴い文章力に対する自信の上昇と不安の低減が見られたこと、文章力の必要性およびそれを向上させるための努力の認識が年次を通じて差異が

見られなかったことが明らかになった。後者については、卒論ラボおよびワンポイント講座等の啓発行事についての学生の認知度が低く、広報の質・量ともに十分ではないことが明るみになった。また、年次や時期によって変化する学生の（潜在的）ニーズを考慮してテーマを選定する必要があることもわかった。

今回の調査では、アンケートフォームの自由記述欄（文章力が必要となるシーン、ワンポイント講座の開講曜日の選好の理由）の報告および考察について割愛したが、これらを含めた考察は、稿を改めて報告を行いたい。また、今回は年次ごとの横断調査であったが、今後も同様のアンケートを実施し、進級に伴った縦断調査が行えるよう継

続して実施していきたい。

### 引用文献

中央教育審議会（2008）. 学士課程教育の構築に向けて（答申）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)

（accessed 2011.02.15）

### 謝辞

本調査は、授業終了後に担当教員から学生にアンケートフォームを配布してもらい、その時間内に回収を行ったものに基づいている。ご協力いただいた教員の皆様に感謝の辞をここに申し上げる。

## 〈卒論ラボ〉に関する調査

文学部GP委員会

この調査では、〈卒論ラボ〉の運営について検討することを目的としています。

この調査で得られた情報は、上記の目的以外の用途には一切使用いたしません。また、記入された回答は統計的に処理されるため、個人がどのように回答したかを特定されることはありません。

内容について、ご理解、ご賛同いただけましたら、下記に従って、ご回答をお願いいたします。

なお、以前に本アンケートにご回答くださった方は、今回はご回答いただく必要はありません。

【回答方法】 質問には、マーク欄と自由記述欄の2種類があります。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗りつぶしてご回答ください。

☐ : 空白マーク

☒ : 正しいぬりつぶし

☐ : 不十分なぬりつぶし

記述式の回答は、回答欄からはみ出さないように記入してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

### I 以下の質問にお答えください。

#### (1) 学部

☐ 文学部

☐ 法学部

☐ 経済学部

☐ 商学部

☐ 社会学部

☐ 政策創造学部

☐ 外国語学部

☐ 人間健康学部

☐ 総合情報学部

☐ 社会安全学部

☐ システム理工学部

☐ 環境都市工学部

☐ 化学生命工学部

☐ 該当なし

#### (2) 学年

☐ 1年生

☐ 2年生

☐ 3年生

☐ 4年生以上

☐ その他（聴講生・科目履修生など）

### II 所属する専修についてお答えください（文学部生のみ）

(3) 専修 質問(1)で文学部と答えた方のみマークしてください。1年生は、来年度から分属される専修が決まっていればお答えください。決まっていない場合や不明の場合は、「該当なし」をマークしてください。

☐ 英米文学英語学

☐ 英米文化

☐ 国語国文学

☐ 哲学倫理学

☐ 比較宗教学

☐ 芸術学美術史

☐ フランス学

☐ ドイツ学

☐ 日本史・文化遺産学

☐ 世界史

☐ 地理学・地域環境学

☐ 中国学

☐ 教育文化

☐ 初等教育学

☐ 心理学

☐ 情報文化学

☐ 身体運動文化

☐ 映像文化

☐ 文化共生学

☐ アジア文化

☐ 該当なし



### III 文章をとおして自分の考えを的確に伝える力（文章力）について、おたずねします。

- (4) 次の質問について、「まったくそう思わない」から「とてもそう思う」の中から、あてはまるものを1つ選んでマークしてください。

		まったく そう 思わない	あまりそ う思わない	どちらと もいえない	ややそ う思う	とても そう思う
1	文章力に自信はありますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	文章力に不安はありますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	文章力を向上させるために何か努力をしていますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	大学生でいる間、文章力は必要だと思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	大学を卒業してからも、文章力は必要だと思いますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

- (5) 大学での学習や生活の中で文章力が必要だと思う状況について、具体的にお答えください。（自由記述）

### IV 卒論ラボ、および卒論ラボ主催行事についてお尋ねします。

次の質問について、あてはまる答えを1つ選んで回答してください。ただし質問(12)はあてはまるものをすべて、質問(14)は2つ選んで回答してください。

- (6) 卒論ラボの役割を知っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

- (7) 卒論ラボの場所を知っていますか。

☐ 知っている ☐ 知らない

- (8) 質問(7)で「知っている」と答えた人にお聞きします。これまでに何回利用しましたか。

☐ 利用したことがない ☐ 1回 ☐ 2回 ☐ 3回以上

- (9) ワンポイント講座が開講されているのを知っていますか。

☐ はい ☐ いいえ

- (10) 質問(9)で「知っている」と答えた人にお聞きします。どこで開講を知りましたか。

☐ インフォメーションシステム ☐ 学内の掲示物 ☐ ゼミ教員から ☐ 授業での案内から

☐ 友人・知人から ☐ 〈学びの環境リンク〉HP ☐ その他

- (11) 質問(9)で「知っている」と答えた人にお聞きします。これまでに何回受講しましたか。

☐ 受講したことがない ☐ 1回 ☐ 2～4回 ☐ 5～9回 ☐ 10回以上

- (12) ワンポイント講座を受講するとすれば、何曜日の昼休みがいいですか（複数回答可能）。

☐ 月曜日 ☐ 火曜日 ☐ 水曜日 ☐ 木曜日 ☐ 金曜日 ☐ 土曜日

(13)その理由についてお答えください。(自由記述)

(14)下は、ワンポイント講座で扱った内容の一覧です。次の中から、興味のあるテーマを2つ選んでマークしてください。

- ☐ 「卒論のここが知りたい」…卒論の重要性・効用を知ろう
- ☐ 「書く前に、こうやって読む」…クリティカル・リーディングの方法を知ろう
- ☐ 「文章のアクセサリ」…読点の効用を知り、文章作成意識を高めよう
- ☐ 「感想文と論文」…学術的文章における客観性の重要性を確認しよう
- ☐ 「論拠と意見」…主観と客観の区別を意識しよう
- ☐ 「文章の順番」…ナンバリングを身に付けよう
- ☐ 「「しかし」と「そして」」…接続詞を使う意味を理解しよう
- ☐ 「具体例をうまく使う」…帰納法・演繹法について理解を深めよう
- ☐ 「説得する表現」…論理的思考の重要性を再認識しよう
- ☐ 「「剽窃」と「引用」」…文章表現における倫理観を身に付けよう
- ☐ 「論文の作法」…引用方法や参考文献の示し方についてルール(例)を知ろう

※2011年度秋学期の期間中、月曜日と木曜日(12:20~12:50)に上記の内容でワンポイント講座が開催されました。2012年度も開催しますので、是非ご参加ください。

(15)「文章力をみがく講演会」が2011年6月と11月に開催されたことを知っていますか。

- ☐ 知っている      ☐ 知らない

(16)質問(15)で「知っている」と答えた人にお聞きします。どこで開講を知りましたか。

- ☐ インフォメーションシステム      ☐ 学内の掲示物      ☐ ゼミ教員から      ☐ 授業での案内から
- ☐ 友人・知人から      ☐ 〈学びの環境リンク〉HP      ☐ その他

(17)質問(15)で「知っている」と答えた人にお聞きします。これまでに何回受講しましたか。

- ☐ 2回とも      ☐ 1回      ☐ 参加しなかった

(18)ワンポイント講座特別編「ワンランク上のライティングへ」が開催されたことを知っていますか。

- ☐ 知っている      ☐ 知らない

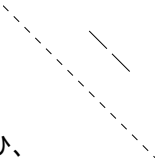


(19)質問(18)で「知っている」と答えた人にお聞きします。どこで開講を知りましたか。

- ☐ インフォメーションシステム      ☐ 学内の掲示物      ☐ ゼミ教員から      ☐ 授業での案内から
- ☐ 友人・知人から      ☐ 〈学びの環境リンク〉HP      ☐ その他

(20)質問(18)で「知っている」と答えた人にお聞きします。この講座に参加しましたか。

- ☐ 参加した      ☐ 参加しなかった

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。なお、調査結果は、文学部GP委員会の会議資料、専門機関の研究誌への掲載、文学部GP取組報告書への掲載など、文学部卒論ラボの改善を目的として利



用し、それ以外には使用しません。また、調査結果は卒論ラボに保管し、随時閲覧公開します。ぜひ、卒論ラボにお立ち寄りください。